

News Release

2007年 3月 27日
株式会社 SOBA プロジェクト

Windows® Vista™対応、純国産のビジュアルコミュニケーション基盤技術
商用版「SOBA フレームワーク 3」のライセンス販売開始

産学官発ベンチャー企業の株式会社 SOBA プロジェクト(本社:京都市下京区、代表取締役社長:緒方 敏博)は、P2P 型ビジュアルコミュニケーションシステムの構築を効率良く開発することができる「SOBA フレームワーク 3」を技術開発者・研究者向けに3月30日からライセンス販売開始いたします。

SOBA(Session Oriented Broadband Applications、“ソーバ”)フレームワーク 3は、双方向性のビジュアルコミュニケーションスタイルを実現するためのミドルウェア技術です。当社が、その前身である2002-2004年度産学官共同体制SOBAプロジェクト(京都大学、財団法人京都高度技術研究所、オムロン株式会社および NTT コムウェア株式会社を中心とする研究開発組織)によって研究開発した技術を継承し、ソフトウェア基盤技術としての信頼性や安定性を確保するとともに従来の機能を改良および新機能を追加・充実することで商品化を図ったものです。

ブロードバンド環境が普及したことでビジュアルコミュニケーション市場は2010年には現在の約4倍を越える約830億円の市場規模に成長することが予測されています(参考:「2006年版 テレビ会議/Web会議の最新市場動向」、シード・プランニング社)。ビジュアルコミュニケーション市場の拡大が見込まれる状況で、次世代の双方向性重視型ビジュアルコミュニケーションの手段を実現することが可能なSOBAフレームワーク 3は対面重視のコミュニケーションスタイルが望まれるビジネスシーンに有効な情報共有アプリケーションやビジュアルコミュニケーションシステムの構築に最適な唯一の純国産となるソフトウェア基盤技術に位置づけられます。



SOBA フレームワーク 3 を利用することで、ビジュアルコミュニケーションによるサービス化を促進することが可能となるので、医療分野、福祉分野、教育分野、行政分野、商工業分野、コンサルタント業務分野などの、対面によるコミュニケーションが重要視される様々な場面でネットワークを介した遠隔対面サービスの業務形態を革新できる可能性を秘めています。

ソフトウェア・システム開発ベンダーは、SOBA フレームワークによって提供されるコミュニケーションの諸機能を応用することで自社の製品への組み込みや既存システムと連携したシステム構築を行うことができます。このため、遠隔医療支援システム、遠隔教育支援システム、遠隔対面販売支援システムなどを独自に一から開発する場合と比べて、開発工数の削減や開発生産性の向上が図れるためトータルコストを抑えたシステム開発やサービスインを実現できることとなります。

当社では、すでに SOBA フレームワーク 3 の技術をコアにした製品として、ASP による「SOBA mieruka(ソーバ・ミエルカ、<http://mieruka.soba-project.com/>)」(2006 年 12 月サービス開始)のシステム、窓口業務支援システム、医用向けシステムや教育支援向けシステムなどを提供し、好評を頂いており、効率のよい開発生産性で実績を挙げております。

なお、SOBA フレームワーク 3 の技術には、2006 年度(平成 18 年度)独立行政法人情報通信研究機構の民間基盤技術研究促進制度(地域中小企業・ベンチャー重点支援型)による委託業務として当社が研究課題「ユビキタスネット社会を実現するための VIIC(Visual Interactive Information and Communications)基盤技術に関する研究開発」に取り組んだ研究成果の一部が活用されています。

当社は、社会的共通資本となるべく、SOBA 技術を活用した事業化を通じて次世代の双方向型ビジュアルコミュニケーション市場を開拓し、我々の生活に密着した衣食住環境の充実に貢献して参ります。

SOBA フレームワーク 3 の製品概要

製品名	SOBA フレームワーク バージョン 3
利用形態	年間ライセンス契約
価格	1 ライセンスあたり、100 万円(税別)より
オプション	年間保守契約は別費用による。
製品構成	<ul style="list-style-type: none"> ・ SOBA フレームワーク一式 ・ サンプルアプリケーションのバイナリ ・ 各種ドキュメント一式、その他。
販売開始期日	2007 年 3 月 30 日
販売目標	100 セット(販売開始後 1 年間)

受託開発も承ります。ご相談くださいませ。

SOBA フレームワーク 3 の特徴

- ・ 情報共有空間のための“セッション”を自在に生成
 - ネットワーク上に情報共有の空間を任意に生成し、各種情報（映像、音声、テキストなど）や Windows アプリケーション共有を簡易的に実現する枠組みを提供。
- ・ P2P (Peer to Peer) を応用した多対多による通信形態
 - 専用サーバを不要とするシステム構成と運用で、機器導入コストや通信・運用コストの削減ができる。
- ・ リアルタイム・コミュニケーションおよび情報共有のためのミドルウェア
 - 遠隔多地点間でのコミュニケーションに必要な映像・音声ツールや情報共有ツール群の機能を網羅的に提供。ビジュアルコミュニケーションに必須の機能が集約したフレームワーク（枠組み）構成。
- ・ マルチプラットフォーム対応
 - Windows や Linux などの異なる OS の混在環境でも動作するアプリケーション開発が可能。
- ・ 高い開発生産性と機能拡張性
 - カスタマイズによるアプリケーションの機能改良やオリジナルの機能追加などの開発が容易であるため、開発コストの削減が見込める。
- ・ 高いセキュリティ強度
 - 端末間の通信は SSL による暗号化が行うことが可能であり、最高で鍵長 256 ビットの暗号化強度を有する。
- ・ 高画質カメラ映像にも対応
 - Web カメラはもちろん DV (IEEE1394) カメラにも対応。臨場感のある高画質映像の送受信機能が提供される。
- ・ 多様なネットワーク環境にも柔軟に対応
 - ファイアウォール環境でもセキュリティを確保した通信を実現可能。
ただし、この場合、別途、SOBA データ用の中継サーバを利用・設置する必要有り。

SOBA フレームワーク 3 の動作環境

	Windows 版	Linux 版
対応 OS	Windows 2000 / XP/ Vista	Linux ディストリビューション： Red Hat Linux 9 / Fedora Core 3,4,5 で動作確認
必須環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ JRE v1.5.0_09 ・ DirectX 9 	<ul style="list-style-type: none"> ・ JRE v1.5.0_09 ・ ffmpeg 0.4.8 ・ speex 1.1.3
CPU (推奨)	Pentium®4 1.4GHz 以上、またはこれに相当する CPU 性能	
メモリ (推奨)	512MB 以上	
ネットワーク環境	ADSL 環境、光回線接続環境 (10Mbps 以上推奨)	
周辺機器	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種カメラ映像機器 (USB カメラ / Web カメラ、DV カメラ、ビデオキャプチャカードなど) ・ ヘッドセット ・ マイク付きスピーカー ノイズキャンセラーまたはエコーキャンセラー付を推奨 	

【会社概要】		(2007年2月末日現在)
会社名	株式会社 SOBA プロジェクト	
英文社名	SOBA Project, Inc.	
本社所在地	〒600-8813 京都市下京区中堂寺南町 134 番地 京都リサーチパーク 2 号館 2 階 1 号室	
代表取締役社長	緒方 敏博	
取締役副社長	乾 和志	
資本金	6,850 万円	
設立	2005 年 1 月 27 日	
URL	http://www.soba-project.com/	
事業内容	ソフトウェア受託開発 / 研究開発、インターネット附随サービス(ASP サービス)	

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社 SOBA プロジェクト <http://www.soba-project.com/>

京都本社 広報担当：井村 美和 E-mail:imura@soba-project.com
 〒600-8813 京都市下京区中堂寺南町 134 番地
 京都リサーチパーク 2 号館 2 階 1 号室
 TEL:075-323-6066 / FAX:075-323-6067

東京支社 経営企画：小柴 眞 E-mail:koshiba@soba-project.com
 〒101-0047 東京都千代田区内神田 1 丁目 14-14
 Remark 大手町 4 階
 TEL: 03-3518-2735 / FAX: 03-3518-2736

以上